

## 選評

第32回新聞広告賞は、広告主企画部門に418作品、新聞社企画部門に39作品の応募をいただきました。ご関係の皆様へ深く感謝申し上げます。

応募作品の選考は、6月から7月にかけて3次にわたって行い、7月27日の選考委員会（広告委員会）で新聞広告大賞をキリンビールマーケティングの「キリンビール仙台工場『これからも、宮城で。since1923』」に贈ることを決めました。また、新聞広告賞に広告主企画部門、新聞社企画部門の各5作品、広告主企画部門優秀賞10作品、新聞社企画部門奨励賞5作品を選定し、9月5日の理事会で正式に授賞を決定いたしました。

新聞広告賞は、評価プロセスの客観性、透明性、審査の公平性を担保するため、お二人のクリエイティブディレクターを外部審査委員として招へいしています。今回も選考委員会に先立って開催された選考分科会に、昨年同様、中島祥文氏（ウエーブ クリエーション代表取締役、多摩美術大学名誉教授）、西村佳也氏（ウエストビレッジCA代表取締役）に選考に携わっていただきました。

新聞広告大賞に選ばれたキリンビールマーケティングの作品は、東日本大震災で被害を受けた同社仙台工場が、地元で操業再開を目指すことを震災後間もない4月末に宣言し、暗いムードの漂う被災地に明るい話題を届けました。この作品をはじめ、今年も両部門ともに震災関連の作品が多く集まり、新聞広告を介して読者に届けられた力強く優しいメッセージが目を引きました。新聞社企画部門で子ども、未来、命、絆をテーマにした作品が目立ったのも特長的でした。

今回入賞した作品は、いずれも新聞広告の新しい利用法や新聞広告本来の力を感じさせるものです。

ご応募をいただきました広告主の皆様と関係各位にあらためて感謝申し上げますとともに、今回の授賞が、各社の社業および新聞広告の発展の一助となれば望外の幸せです。今後とも新聞広告に一層のご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

2012年10月19日

第32回新聞広告賞 選考委員会  
 一般社団法人日本新聞協会 広告委員会  
 委員長 松 本 肇

## 審査講評



なかしま しょうぶん  
中島 祥文氏

アートディレクター

株式会社ウエーブ クリエーション  
代表取締役

多摩美術大学名誉教授

1944年愛知県生まれ。多摩美術大学卒。

J.W.トンプソンなどを経て、81年ウエーブ クリエーションを設立。

東京アートディレクターズクラブ会員(02~04年審査委員長)、朝日新聞社広告賞審査員(92年~)、日本経済新聞社広告賞審査員(97年~)、読売新聞社広告賞審査員(96~99年)を務める。

東京ADC会員最高賞、日本宣伝賞山名賞ほか多数受賞。

著書に『考えるデザイン』(09年・美術出版社)。

### 事実から生まれた新聞広告の役割

新聞広告は、時にドラマを伝える。知って欲しい事実を、リアリティーを持って記述することで、人々に肉迫できる。アプローチが現実と向き合い、時代の渦中にあればあるほど結果の振幅は大きい。新聞広告の役割は、いろいろな視点から論じられてきた。しかし、3・11のようなかつてない震災<sup>たいじ</sup>に対峙したことで、ドラマは経験の域を超えたものになった。

今年の広告主企画部門の大賞には、「キリンビール仙台工場『これから、宮城で。since1923』」が選ばれた。4回に渡る掲載日が、このドラマを実証している。3・11のあと、4月29日には早くも操業開始の宣言。7月15日には復旧への実状と再仕込みへの決意。10月15日には再仕込みから操業開始への報告。11月19日には出荷再開が現実のものとなった告知。全ての広告を貫くビジュアルの主役は、被災者である工場従業員たちだ。この報告のかたちをとったドラマは、地元の人々へ、どれだけの気力と明るさを届けたか計り知れない。事実を追い、報告を続けた結果に、改めて新聞広告の役割を認識させられた。

新聞社企画部門の本賞の一つを受賞した河北新報社の「仙台七夕まつり『想いをひとつに』プロジェクト」は、復興への想い<sup>おも</sup>を込めて、折り鶴と短冊を、県内県外から募集することから始まった。結果は予想をはるかに上回る数が集まり、企画の想いが実現した。その数なんと、折り鶴は79万羽、短冊は6万枚。ここでは、地元と全国を結ぶドラマが生まれたと言えよう。

新聞広告は、普遍的な役割を核としながら、刻々と変化する状況の中で新たな力を現実のものにした。震災をテーマとした広告は来年も続くだろう。震災が提起した問題を風化させないためにも、復興のレベルに応じて、これまでにない役割が求められるのではないだろうか。



にしむら よしなり  
西村 佳也氏

クリエイティブディレクター  
コピーライター

株式会社ウエストビレッジ CA 代表  
取締役

東京アートディレクターズクラブ、  
東京コピーライターズクラブ会員。  
毎日広告デザイン賞、広告電通賞  
賞審査員を務める。  
毎日広告デザイン賞特選、準朝日  
広告賞、ADC 会員賞、TCC 最高  
賞、クリオ賞、IBA 賞など受賞。  
主な仕事に、サントリー山崎「なに  
も足さない。なにも引かない」、ウ  
ールマーク「触ってごらん、ウール  
だよ」など。

## 見つめ直すことで立ち上がる意志。

今年は新聞社企画部門の話から始めたいと思う。2011 年は震災を抜きにしては語れない年となった。そして今年の新聞社企画には、目を見張るものが多かった。この多難な年に、それぞれの地域の知を牽引している新聞というメディアがいかに現実の課題に密着した活動をしてきたか、という軌跡を辿るような想いがあった。

どれも力のこもった特集企画だったが、中でも岩手日報・河北新報・福島民報・福島民友新聞の 3.11 東日本大震災 3 県 4 紙合同プロジェクトの紙面には圧倒された。丁度一年前の震災翌日の 4 紙の紙面を再現した 4 ページ見開きと、再生に取り組む人たちの「いま」を紹介した特集は、身震いするような「事実」の強さをまざまざと見せつけてくれた。そこからは、惨禍を忘れるのではなく、改めて見つめ直すことでダメージから立ち上がろうとする強い意志と勇気が感じられた。

広告主企画部門についていうと、個人的には震災を題材としたものよりも、むしろ入賞したパナソニックや東芝の LED 照明の広告のような、日々コツコツと積み上げられていく地道な日常の広告活動に目を向けたいと思っていたが、それでも否応なく目を釘付けにされたのが、環境省の広域処理情報の広告だった。未だ処理されぬままに放置されている膨大な瓦礫や廃棄物の山。「事実」の強さを通じて、推し進めねばならない課題の重さがストレートに伝わってくるように思った。

グランプリの麒麟ビールも、ストップしていた工場が再開されるという喜びと、感謝の気持ちがひしひしと伝わる、温かみのあるいい広告だった。またうまいビールを送り届けますというお知らせであると同時に、社員や関係者の人たちの気持ちを鼓舞し盛り上げるという効果も計算されている。広告の果たす役割は多様なですね。

## 応募状況・選考経過

### 応募・推薦状況

2011年6月1日から2012年5月31日までに、新聞協会会員新聞に掲載された広告活動を対象に、広告主企業、広告会社、新聞社に応募・推薦を呼びかけた結果、6月4日までの受付期間に、広告

主企画部門に418作品(単独広告主412作品、複数広告主6作品)、新聞社企画部門に39作品(単独企画36作品、共同企画3作品)の応募・推薦があった。

### 選考経過

新聞協会会長の任命する委員をもって新聞広告賞選考委員会(=広告委員会)が組織され、下記のとおり応募・推薦作品の審査・選考を行った。

#### 1. 新聞広告賞予備選考会=6月13日~22日

選考委員会は、広告委員会の下部組織である広告プロモーション部に予備選考を委嘱した。新聞広告賞予備選考会は、広告主企画部門、新聞社企画部門の両部門に応募・推薦のあった全広告活動を対象に審査した。

##### (1) 第1次予備選考会=6月13、14、15、16日

広告主企画部門の全作品のなかから、広告プロモーション部会の各委員がそれぞれ30作品を推薦し、総計86作品を第2次予備選考会の審査対象とすることにした。また、新聞社企画部門の全作品を内覧した。

##### (2) 第2次予備選考会=6月21、22日

選考に先立って座長に一木弘信・広告プロモーション部会長(西日本)を互選、審査・選考にあたっては、新聞広告賞制定の趣旨から、企画性、広告活動の成果など新聞広告活動の全過程を対象に評価することを確認した。

21日は新聞社企画部門の選考を行い、選考基準の各項目を念頭において審査することを確認したのち、展示された広告紙面と「応募申込書」の記載事項に基づいて審議・投票した。その結果、15作品を選考分科会に上申することを決めた。

22日は、広告主企画部門の第1次予備選考会を通過した作品を対象に選考を行った。展示された広告紙面と応募申込書の記載事項に基づいて審議・投票を重ねた結果、32作品を選考分科会に上申することを決めた。

#### 2. 新聞広告賞選考分科会=7月26日

広告委員会常任委員およびアートディレクターの中島祥文氏(ウエーブクリエーション代表取締役、多摩美術大学名誉教授)、クリエイティブディレクター・コピーライターの西村佳也氏(ウェストビレッジ コミュニケーション・アーツ代表取締役)で構成された選考分科会で、新聞広告賞予備選考会から上申された候補作品を審査・選考した。

選考に先立ち座長に手塚泰彦・広告委員会副委員長(毎日東京)を互選、小牧正之・広告プロモーション部会副部会長が、応募総数・応募作品の傾向、予備選考会経過、上申作品の推薦理由を報告した。

新聞社企画部門については、予備選考会から上申された15作品を閲覧のうえ、30点満点で採点して、5社5作品を新聞広告賞授賞候補、5社5作品を奨励賞授賞候補とした。なお、自社作品には投票権を認めなかった。広告主企画部門については、32作品を対象に作品閲覧のうえ連記式の投票により入賞16作品を選び、順位に従って1社1作品を新聞広告大賞授賞候補、5社5作品を新聞広告賞授賞候補、そのほか10社10作品を優秀賞授賞候補に決定した。以上、計26作品を新聞広告賞選考委員会に上申することにした。

#### 3. 新聞広告賞選考委員会=7月27日

7月度広告委員会が最終の選考委員会となり、手塚・選考分科会座長が選考経過についての報告を行った。広告委員会は選考分科会からの上申を最終選考結果とし、9月度理事会の承認を得ることとした。

#### 4. 理事会=9月5日

新聞協会理事会は、新聞広告賞選考委員会からの選考結果と選考経過に関する上申を承認した。

## 第32回新聞広告賞選考委員会名簿

朝日新聞東京本社 広告局長 入江英主	日本経済新聞大阪本社 クロスメディア大阪営業局長 坂村道生	神奈川新聞社 クロスメディア営業局長 須藤浩之	中国新聞社 執行役員広告局長 石川哲夫
毎日新聞東京本社 広告局長 手塚泰彦	産経新聞大阪本社 執行役員営業局長 田中康雄	千葉日报社 理事広告局長 鎗田光明	山陰中央新報社 執行役員広告局長 仲田武史
読売新聞東京本社 執行役員広告局長 松田陽三	北海道新聞社 取締役広告局長 田村雄司	山梨日日新聞社 広告局長 西川新	山口新聞社 取締役山口新聞本部副本部長 宮本邦彦
日本経済新聞社 執行役員クロスメディア営業局長 富田賢	十勝毎日新聞社 執行役員広告局長 和田郁夫	静岡新聞社 取締役営業局長 村松重治	徳島新聞社 理事営業局長 長岸実
東京新聞 広告局長 西田正直	東奥日報社 専務取締役営業編成局総括 塩野勝幸	信濃毎日新聞社 広告局長 石田一西	四国新聞社 執行役員広告局長 泉川誉夫
産経新聞東京本社 営業局長 松本肇	デーリー東北新聞社 広告局長 東徹	中日新聞社 広告局長 井戸義郎	愛媛新聞社 取締役営業局長 今井俊朗
ジャパンタイムズ 代表取締役社長 堤丈晴	岩手日報社 取締役広告局長 吉田誠一	岐阜新聞社 取締役営業本部長兼広告局長 矢島薫	高知新聞社 取締役広告局長 岡村亨
報知新聞社 常務取締役営業統括・広告局長 玉木雅治	河北新報社 取締役営業本部副本部長 中山晴久	新潟日报社 常務取締役営業統括本部長 兼広告事業本部長 小田敏三	西日本新聞社 執行役員広告局長 竹内一平
日刊工業新聞社 執行役員業務局長 長野光博	秋田魁新報社 取締役営業局長兼営業本部副本部長 小林敦	北日本新聞社 執行役員営業局長 白田嘉久	佐賀新聞社 執行役員営業局長 宮崎俊一
日刊スポーツ新聞社 広告事業局長 山田健一	山形新聞社 広告局長 本田孝三	北國新聞社 取締役営業局長 砂塚隆広	長崎新聞社 営業局長 山田昌弘
日本工業新聞社 営業・事業本部長兼営業部長 松岡健夫	福島民報社 取締役広告局長 矢森真人	福井新聞社 常務取締役営業本部長兼営業局長 奥村正昭	熊本日日新聞社 取締役広告局長 松永幹夫
スポーツニッポン新聞社 常務執行役員広告局長 矢野康彦	福島民友新聞社 取締役広告局長 渡辺昌俊	伊勢新聞社 代表取締役社長兼営業局長 小林千三	大分合同新聞社 取締役営業局長 入不二茂隆
日本農業新聞 広報局長代理 小林真	茨城新聞社 取締役営業局長 桜井由紀夫	京都新聞社 京都新聞COM営業戦略推進室長 白石真古人	宮崎日日新聞社 取締役広告局長 岡本哲
朝日新聞大阪本社 広告局長 高津利明	下野新聞社 役員待遇営業局長兼営業本部本部長 飛田博通	神戸新聞社 執行役員営業局長 皆川広一	南日本新聞社 営業統括本部長広告・事業担当 山元良久
毎日新聞大阪本社 執行役員大阪本社副代表 兼広告局長 園崎明夫	上毛新聞社 常務取締役広告・事業担当 広告局長 山田義明	奈良新聞社 取締役企画推進部長 上田達雄	沖縄タイムス社 広告局長 比嘉弘
読売新聞大阪本社 取締役広告局長 伊藤隆範	埼玉新聞社 取締役クロスメディア局局長 関根正昌	山陽新聞社 専務取締役営業局長 高橋隆一	琉球新報社 取締役広告局長 糸数淳

以上64社64人(2012年7月現在、  
会員名簿順、敬称略)

## 賞の構成

### 構成

新聞広告賞は、広告主企画部門と新聞社企画部門の2部門で構成される。広告主企画部門では当該広告活動の企画立案にあたった広告主に、新聞社企画部門では日本新聞協会会員新聞社の当該広告活動企画部門に、それぞれ贈られる。

第30回より、広告主企画部門には新聞広告大賞を設け、受賞者には賞状および記念像、純金製記念メダルが贈られる。両部門とも新聞広告賞はそれぞれ5点とされている。

また、広告主企画部門においては若干数の「優秀賞」が、新聞社企画部門においても、若干数の「奨励賞」が、それぞれ与えられることになっている。

### 賞

#### ●新聞広告大賞〈広告主企画部門〉

賞状とブロンズ記念像、純金製記念メダル

#### ●新聞広告賞〈広告主企画部門〉

賞状とブロンズ記念像

#### ●新聞広告賞〈新聞社企画部門〉

賞状と純銀メダル付きクリスタルトロフィー（丸型）

#### ●新聞広告賞優秀賞〈広告主企画部門〉

賞状と純銀メダル付きクリスタルトロフィー（角型）

#### ●新聞広告賞奨励賞〈新聞社企画部門〉

賞額



ブロンズ記念像

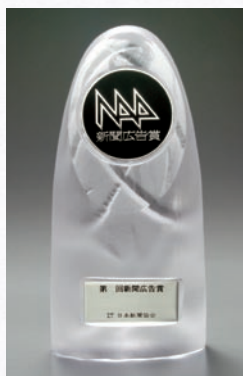
#### 新聞広告賞ブロンズ記念像

日本新聞協会は、新聞広告賞〈広告主企画部門〉入選者の栄誉をたたえて故・高田博厚氏制作のブロンズ記念像を贈ります。

この記念像「STATUETTE」は、新聞広告賞のために特に高田氏に制作をお願いしたもので、豊饒・気品・健康・温かさ、といったイメージを表現しています。



純金製記念メダル



クリスタルトロフィー  
（丸型）



クリスタルトロフィー  
（角型）

## 第32回新聞広告賞 新聞広告大賞受賞作品



1.



2.



3.



4.

- 2011年4月29日掲載。東日本大震災から1か月、この地で仙台工場の操業再開を目指すことを宣言。
- 7月15日掲載。9月末のビールづくり再開へ向け、一日また一日、片付け・復旧作業を進める姿を伝えた。
- 10月15日掲載。持ちに持った「一番搾り」を手に「一番搾り」のビールを手に、従業員一丸となり走りつづることができた。
- 11月19日掲載。定方もなく思えた困難を乗り越え完成した、「感謝の」仙台工場産キリンビールを手に、

日本新聞協会は、このほど、第32回新聞広告賞の新聞広告大賞を、キリンビールマーケティング株式会社の「キリンビール 仙台工場「これからも、宮城で、since 1923」」に贈ることを決定しました。

東日本大震災により、巨大ビアタワーの倒壊や海水の浸水など、甚大な被害を受けたキリンビール仙台工場が地産で操業・出荷再開するまでの道のりを、4回シリーズで掲載しました。

多くの被災企業が宮城県から撤退を余儀なくされるなか、88年前から被災地に根を張る企業として、復興に向けて歩む強い企業姿勢を伝えました。被災後間もないタイミングでのメッセージ発信は、眼目に希望を伝えるとともに、同じ被災者として困難に立ち向かった企業の信念は多くの感動を呼び、地域との絆をより強固なものとした。新聞広告のコミュニケーション力を最大に生かした点が高く評価されました。

1981年に創設された新聞広告賞は、「新聞広告活動の全過程」を対象に選考する日本でも一つの表彰制度です。新聞広告の新しい利用法や表現領域の開拓に成功した活動、新聞広告を使って広告目的に合った大きな効果をあげた活動、新聞媒体の特性・機能を活用し、新聞と広告の発展に対し大きな貢献をした広告活動——を基準に選考しました。

応募総数は457作品で、日本新聞協会広告委員会（全国の新聞社64社の広告責任者で構成）および外部審査委員団による厳正な審査の結果、大賞は以下の作品を新聞広告賞に決定しました。

●**広告主企画部門**（広告主名50音順）

●**新聞広告大賞**

- キリンビールマーケティング株式会社
- キリンビール仙台工場「これからも、宮城で、since 1923」

●**新聞広告賞**

- 株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコム walk with you TOHOKU
- 環境省 広域処理広報「みんなの力でがれき処理」
- 株式会社東芝 LED 10年カレンダー
- 日清食品ホールディングス株式会社 カップスードル40周年
- パナソニック株式会社 LED照明「三行広告の全面広告」

●**優秀賞**

- 味の素株式会社 味の素KK 企業キャンペーン「みんなで食べるのって、いいね!」
- エヌメスジャパン株式会社
- クリスマスキャンペーン エルメスから、まごころを込めたおくりもの
- 朝もみ新聞企画実行委員会 快感!! 朝もみ新聞
- 株式会社資生堂 シニア新聞広告
- 株式会社集英社 「2012年、いまこそ、集英社。」
- 株式会社高尾屋 創業記念日広告
- 株式会社コヤマケイティンクヤパン ReDORNキャンペーン
- 株式会社パイロットコーポレーション 書く、を変える。
- 株式会社エコーキヤノン チャン・ダンソック Album [Just Crazy]
- 三井不動産株式会社 日本橋再生計画

●**新聞社企画部門**

●**新聞広告賞**

- 河北新報社営業本部 東日本大震災復興キャンペーン 仙台七夕まつり「想いをひとつに」プロジェクト
  - 山形新聞社広告局 東北未来絵本キャンペーン
  - 新潟日報社営業本部 いのちを話そう。
  - 西日本新聞社広告局 第60回全日本広告連盟福岡大会開催記念 広告特集 Dream More! PROJECT「宇宙兄弟×西日本新聞」
  - 岩手日報社広告局、河北新報社営業本部、福島民報社広告局、福島民友新聞社広告局 3.11東日本大震災3周年4紙合同プロジェクト
- 奨励賞
- 朝日新聞東京本社広告局 映画「テルマエ・ロマエ」タイアップ「良い風呂の日」企画
  - 朝日新聞大阪本社広告局 こどもの日・朝日新聞「子どもの日だから子どものでんでん」広告
  - 福島民報社広告局 「スマイルふくしまー育てよう笑顔の種ー」キャンペーン
  - 岐阜新聞社営業本部 岐阜新聞創刊130周年記念 ハート・アース・プロジェクト つながる、めぐる、飛ぶのころ。
  - 中国新聞社広告局 中国新聞創刊120周年記念企画「こども結ぶキャンペーン」

受賞作品は、日本新聞協会の新聞広告総合サイト「新聞広告データベース」(www.pressnet.or.jp/sdarc/)でご覧いただけます。

一般 日本新聞協会  
社務課 東京都千代田区内幸町2-2-1  
日本プレスセンタービル7階  
電話03(3501)4407 http://www.pressnet.or.jp

新聞広告大賞受賞作品については、全15段ならびに全5段の受賞告知広告を10月15日から12月末日までの間、新聞協会会員各紙において随時掲載する。

# 「新聞広告賞」に関する規定

## 第1条 (目的と名称)

日本新聞協会は、新しい新聞広告の可能性を開拓した広告活動を顕彰し、新聞と広告との発展に資することを目的に「新聞広告賞」を設け、毎年新聞週間に際し贈賞する。

## 第2条 (表彰の事由・贈賞の対象)

- (1) 新聞広告の新しい利用法や表現領域の開拓に成功した活動、新聞広告により広告目的に即して大きな成果をあげた活動、その他新聞媒体と新聞広告の特性・機能を活用あるいは開発し前条の目的に照らして貢献するところが大きいと認められる活動を表彰する。
- (2) 本賞は、協会会員紙に掲載され、前項に該当すると認められた広告作品に贈られる。

## 第3条 (賞の構成)

- (1) 本賞は、広告主企画と新聞社企画との二つの部門によって構成する。
- (2) 選考委員会は、前項両部門について、本賞とは別に広告主企画部門においては優秀賞を、新聞社企画部門においては奨励賞を贈ることができる。

## 第4条 (受賞者)

本賞の受賞者は、広告主企画部門については当該活動の企画立案にあたった広告主企業代表者とし、新聞社企画部門については協会会員新聞社の当該活動企画部門とする。

## 第5条 (表彰)

- (1) 広告主企画部門の入選作は6作品とし、うち1作品に大賞として賞状、記念像と記念品を贈る。ほか5作品に賞状ならびに記念像を贈る。
- (2) 新聞社企画部門の入選作は5作品とし、賞状ならびに賞牌を贈る。
- (3) 優秀賞に対しては賞状と賞牌を贈る。
- (4) 奨励賞に対しては賞状を贈る。

## 第6条 (応募・推薦)

- (1) 本賞は、原則として、本賞の目的に合致した作品の企画・制作、掲載をした関係者の応募により選考を行う。ただし、広告関係の第三者による推薦を妨げない。
- (2) 応募・推薦の手続きは別に定める。

## 第7条 (選考)

本賞の選考はつぎの方法による。

- (1) 会長の任命する委員をもって新聞広告賞選考委員会を組織し、広告賞贈賞に関する事項を審議決定する。
- (2) 選考委員会は、応募・推薦された候補について審議し受賞者を決定、その旨を理事会に上申し承認を得る。
- (3) 選考委員会は、必要に応じ外部の関係者から意見を求めることができる。
- (4) 両部門の特性を考慮し、選考委員会の運営細則を別に定める。
- (5) 選考結果は、「新聞協会報」および「新聞広告報」紙上と新聞協会ウェブサイトで発表する。

## 第8条 (選考の対象期間)

- (1) 本賞選考の対象となる作品は、前年6月1日から本年5月末日までの1年間協会会員各紙に掲載されたものとする。
- (2) 上記期間を越える長期の活動については顕彰に値すると選考委員会が判断した場合は、始期は問わずこれを対象に含める。

## 第9条 (提出資料および締め切り期日)

応募者ならびに推薦者は、当該作品に所定の関係資料をそえて毎年6月初旬までに選考委員会に提出するものとする。

## 第10条 (その他)

本賞の選考および運用の細目については、選考委員会の決定により別に実施細目を設けることができる。

2012年10月19日発行

一般社団法人 日本新聞協会

〒100-8543

東京都千代田区内幸町2-2-1 日本プレスセンタービル7階

電話 03 (3591) 4407

<http://www.pressnet.or.jp>

定価 1,000円 (税込)





NEWSPAPER ADVERTISING PRIZE  
2012